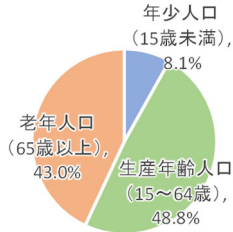


辺地 (へっち)

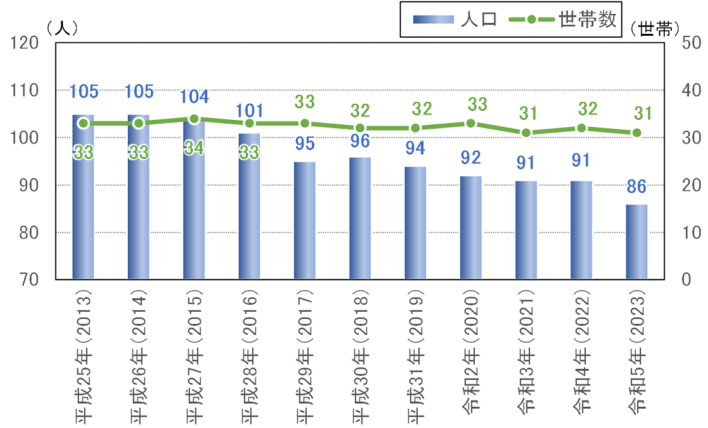
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	81人
世帯数	27世帯
高齢化率	-%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の南北に山が迫り、南側を久斗川が西流し、支流の谷山川沿いに家屋が密集する。南東側に田畑が開けた農村で、久斗川沿いに県道山田新温泉線が走る。

地名由来 「辺」は「あたり」「ほとり」の意味があり、『和名類聚抄』にある久斗郷の周辺部（ほとり）に由来する地名と思われる。

歴史等 弘治3年（1557）の『但馬国にしかた日記』によると、中世には「すすみ谷」と言ったようである。

近世の辺地村は、豊臣政権下では太閤蔵入地（豊臣氏の直轄地）で、江戸時代には、慶長10年（1605）旗本宮城氏知行、正保元年（1645）幕府領、寛文8年（1668）からは豊岡藩領となった。天保5年（1834）の『但馬国郷帳』（天保郷帳）の村高は177石余。昔から久斗川の水が上流の藤尾から伏流水現象を起こして水に恵まれないため、ため池を造るなどして苦勞してきた。幕末には庄屋の小西安兵衛が私財を投じて1.5kmにわたる暗渠（通称：小西いで）を造った。当村の枝郷に藤尾、鹿間があり、江戸時代末頃までに分村したとされる。鹿間は寛文11年（1671）に金屋村の2人が鹿間山に入植したのが始まりとされ、タタラ用の炭焼き続けた小集落である。

明治22年（1889）大庭村の大字となり、昭和29年（1954）からは浜坂町の大字となる。明治24年（1891）の戸数38、人口は男96・女99。

これまで把握している文化財

文化財の件数 18件 (うち指定等文化財 0件)

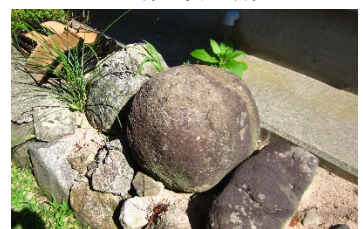
大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	0	2	0	
		石造物	1		0	
		工作物・その他の構造物	1		0	
	美術工芸品	彫刻	4	5	0	
		絵画	0		0	
		工芸品	0		0	
		書跡・典籍	0		0	
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	1	0	0	
		音楽	0	0	0	
		演劇	0	0	0	
		工芸技術	0	0	0	
		その他の無形文化財	0	0	0	
		民俗文化財	信仰の場	3	4	0
		祭具	0	0		
民具	0	0				
その他の有形の民俗文化財	1	0				
無形の民俗文化財		年中行事・民俗芸能	4	5	0	
		民俗技術	0		0	
		食文化	0		0	
		民間話話・俗信	1		0	
		その他の無形の民俗文化財	0		0	
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	2	2	0	
		古墳・その他の墓	0		0	
		城館跡・寺社跡	0		0	
		街道・古道等	0		0	
	名勝地	戦争遺跡	0	0	0	
		その他の遺跡	0		0	
		山岳・高原・丘陵	0		0	
		海岸・海浜・島嶼	0		0	
		河川・滝・溪谷・湖沼	0		0	
		公園・庭園	0		0	
動物・植物・地質鉱物		動物	0	0	0	
		植物	0		0	
文化的景観		生活・産業・風土により形成された景観地	0	0	0	
		伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等		0	0



小西いで・用水



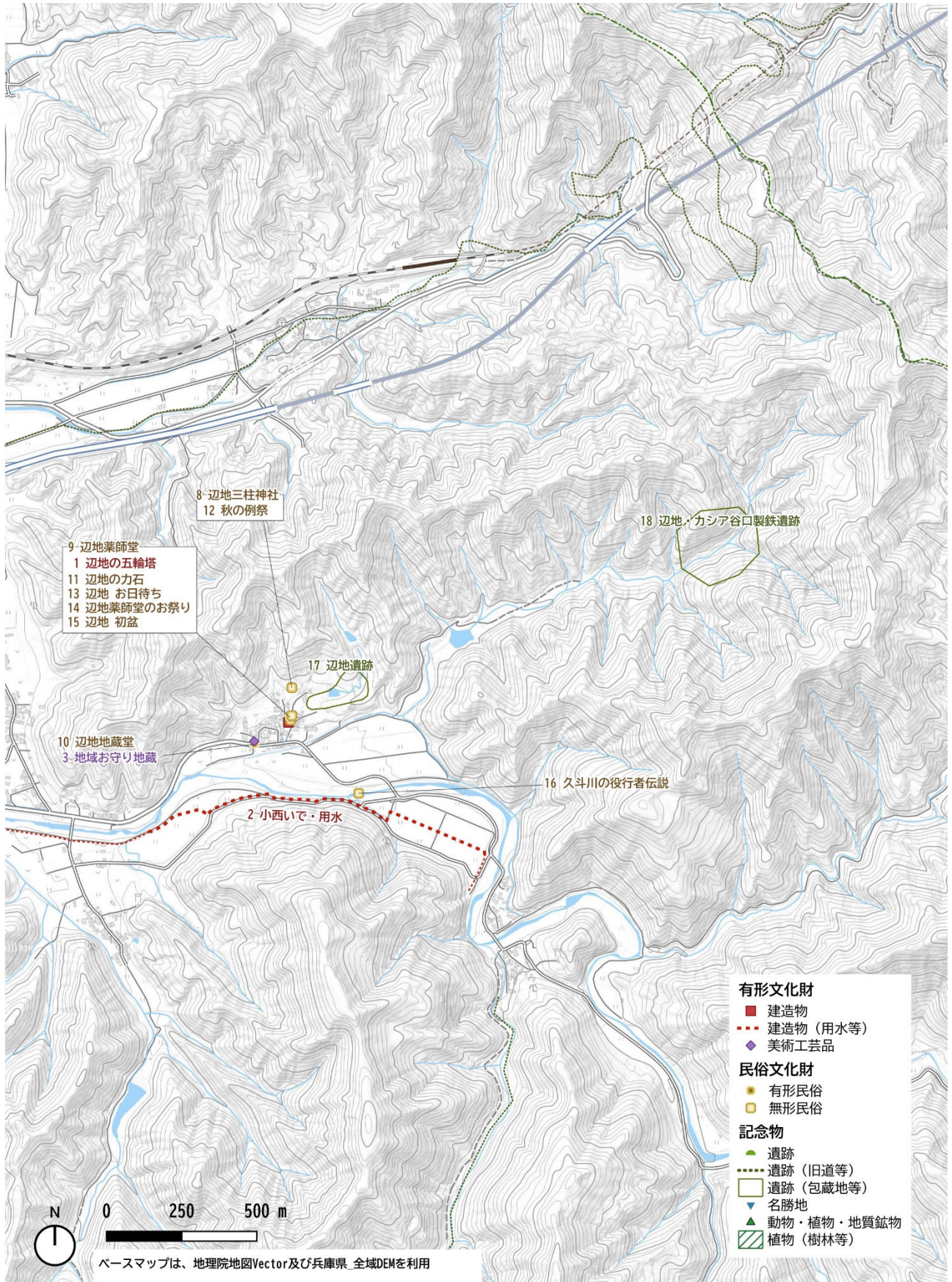
地域お守り地蔵



辺地の力石

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和5年4月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-16 辺地

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	辺地の五輪塔	建立年不明。辺地ふれあいセンター裏にある。高さ 68 cm。その横には建立年代不明の墓石（解説困難）や力石 3 個がある。
工作物・ その他の 構造物	2	小西いで・用水	辺地一帯は、長年水不足に悩まされた地域であった。江戸末期の安政年間（1855～1860）、当地の小西安兵衛が、用水路の建設に取り掛かった。工事は、豊岡藩からの財政的援助や役人の派遣等のもと、当時因幡・但馬で多くの用水路工事を手掛けていた八田村の「黒鍬組」も参加して進められた。しかし、工事の最中に時代が明治へと変わり、豊岡藩からの借入金の即刻返還が必要となるなど、工事の存続が危ぶまれた。この時、安兵衛が私財をなげうって工事を続行させ、明治 4 年（1872）頃、全長約 1km、一部が田の下の深さ 4m を通り、底板・横板・天井板の 4 枚の石板で構成された、他に例を見ない大規模な用水路が完成した。その後小西家は辺地を離れたが、昭和初期頃までは天隣寺（対田）において、年に一度「小西おどり」が行われていたと伝わる。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	3	地域お守り地蔵	辺地地蔵堂に祀られている。高さ 68 cm の自然石に地蔵が彫られている。脇に安永 9 年（1780）7 月建立と刻まれている。
	4	辺地薬師堂の薬師如来像	辺地薬師堂の本尊、薬師如来像。江戸時代のものと思われる。
	5	辺地薬師堂の菩薩像	辺地薬師堂に安置されている菩薩像。江戸時代のものと思われる。
	6	辺地薬師堂の大師像	辺地薬師堂に安置されている大師像。江戸時代のものと思われる。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	7	水田稔文書	江戸時代村制度関係文書。火事により焼失。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	8	辺地三柱神社	祭神は須佐之男命。伊弉諾神、伊弉冉神も祭神とするともいわれる。創立年月は不明。三寶荒神と称したが、明治初年（1868）に三柱神社と改称した。明治 6 年（1873）10 月に村社に列せられる。境内社には、稲荷神社（宇賀美多満神）がある。
	9	辺地薬師堂	辺地ふれあいセンター脇に位置する。江戸期の薬師如来像、菩薩像、大師像が祀られており、毎年 8 月 14 日祭礼が行われる。
	10	辺地地蔵堂	県道と集落への道の角に位置する。2 軀の地蔵が祀られている。
その他の 有形の 民俗文化財	11	辺地の力石	力石は、古くは罪の重さを決める手段の一つとして用いられていたが、次第に石を持ち上げると願いが叶うという「石占い」として、神社の境内に置かれるようになった。この力石を持ち上げる行事は、昭和初め頃まで町内各地でさかんに行われていた。辺地ふれあいセンター裏にある。3 個。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	12	辺地三柱神社 秋の例祭	9 月 28 日に行われる。
	13	辺地 お日待ち	1 月 2 日に集会所で行われる。
	14	辺地薬師堂のお祭り	8 月 14 日に辺地集落内で行われる。
	15	辺地 初盆	盆行事。

分類	番号	名称	概要
民間説話・俗信	16	久斗川の役行者伝説	※『ふるさと浜坂シリーズ1「ふるさと浜坂散歩みち」』（平成4年、浜坂町教育委員会発行）p121 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	17	辺地遺跡	縄文～古墳時代の散布地。縄文土器・弥生土器・土師器・石斧等が出土。
	18	辺地・カシア谷口製鉄遺跡	カシア谷口は辺地部落の裏側の谷で、大正7年(1918)の洪水後、相当数のカナクソが出たと伝わるが、詳細は不明である。